



2026年6月23日

各位

会社名 株式会社テリロジーホールディングス
代表者名 代表取締役社長 鈴木 達
(コード番号 5133 東証スタンダード市場)
問合せ先
役職・氏名 取締役副社長執行役員グループ経営本部長 廣谷慎吾
電 話 03-3237-3437

取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

当社取締役会は、コーポレート・ガバナンスコードで実施が要請されている当社取締役会の実効性につき、第三者機関を活用したアンケートを通じて分析・評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

記

I. 評価の方法

- (1) 対象者：取締役・監査役 8名
- (2) 実施期間：2026年4月24日～2026年5月22日
- (3) 回答方法：【アンケート方式】
 - ・ 全25設問に対し、5段階評価
 - ・ 評価理由や意見等を必要に応じて自由欄に記載

II. 2025年度の実効性に関する評価の結果（概要）

アンケートの分析・評価結果の概要は、以下の通りとなりました。

実施したアンケート結果をもとに評価・分析したところ、当社取締役会は適切に機能しており、取締役会全体の実効性が確保されていることを確認いたしました。

① 取締役会の構成・運営について

取締役会の構成・運営については、前年同様、取締役会における各取締役の役割認識及び役割遂行に対して高い評価となり、議題設定や資料共有のタイミングは適切であり、社外取締役を含めた議論は活発であるとの評価でした。一方で、現在の取締役会メンバーの多様性については社外取締役、女性取締役、技術管掌取締役などの確保が課題としてあがり、今後多様性を確保するための議論を求める意見がありました。今期より初の女性監査役を登用いたしますが、取締役会メンバーの多様性については今後も継続して人選・育成に取り組んでまいります。

② 経営戦略と経営計画について

取締役会において各部門事業の進捗共有と経営戦略や経営計画に沿った評価・モニタリングの仕組みが整備されているという意見や、ガバナンスが一定水準で整備出来ているという意見がありました。一方で、資本コストを意識した議論においては目標として設定した ROE10%を達成しているものの、新規事業やM&Aにおいてグループ全体最適の議論やグループ各社を横断して経営資源配分を行う議論について、グループ会社のシナジーをより意識した事業戦略の検討を望む意見がありました。

③ リスク管理について

内部通報制度が整備されその状況については取締役会にて適宜共有されていること、リスク管理委員会で取り上げられた主要なリスクについて適宜共有されていること、また内部統制についても有効に機能し定期的に取り締役に報告されているとの評価でした。一方で、現状で甘んじることなく、より実効的な取り組みを求める意見がありました。

④ 後継者指名・役員報酬制度について

後継者育成は当社において非常に重要なテーマであり、サクセッションプランの検討がなされているとの認識である一方、より明確な育成計画・後任候補の検討を望む意見がありました。役員報酬制度については、取締役会で承認された方針に基づき決定がなされているとの評価がある一方、業績連動により重きをおいた制度検討を求める意見がありました。当社におきまして従来金銭報酬を固定報酬のみとしておりましたが、2026年5月21日取締役会におきまして、あらたに業績連動賞与の導入を決定しております。

⑤ 株主との対話について

株主との対話において、個人投資家向けの IR 活動を積極的に進めた部分は評価するものの、自社の経営戦略やステークホルダーの価値向上を十分に伝えきれていないとの意見がありました。今後の企業価値向上に対しては、取締役会での議論を十分行い、これまで以上の改善策（新たな打ち手）を求める意見がありました。

⑥ 総括

総括として、ポジティブ評価が全体の 86%と高い水準であった一方、「取締役会メンバーの多様性」、「M&A 戦略」、「次世代後継者育成」、「役員報酬制度」、「株主との対話」といったテーマに対しては、改善の余地を指摘する意見がありました。

III. 今後の対応について

当社の取締役会は、上記の分析・評価結果を踏まえ、「取締役会メンバーの多様性」、「M&A 戦略」、「次世代後継者育成」、「役員報酬制度」、「株主との対話」他意見が寄せられた事案につきましては、取締役会の場で議論をより活発に行うなど取締役会の実効性を一層高めるための取り組みを強化・継続してまいります。

以上